

# 伊豆大島火山1986年の噴火

大島火山噴火対策特別チーム(地質グループ)\*

1986年11月15日 山頂火口(A火口)にて始まった伊豆大島の噴火は 21日にはカルデラ床(B火口列)及びカルデラ外山腹(外輪山斜面 C火口列)で割れ目噴火が起こり 予想を越えた大噴火に至った(一部写真

は本誌1月号口絵に紹介 詳細は本号本文参照)。その後は12月18日にA火口において小噴火が起こったほか火山性微動は観測されているもの(新たな噴火は起こっていない(2月末現在)。



写真1

11月19日三原山火口から溢れた溶岩流はカルデラ床に達した。御神火茶屋から有料歩道を約700mほど行くと厚さ5mの溶岩流に阻まれた(11月20日午前10時頃)。



↑写真2 堅坑状火孔を満たす溶岩。溶岩は写真左下まで追っている。表面は既に固結しているが 所々で表面の割れ目から赤い高温部分がのぞいているのが観察された(11月17日午前12時頃)。



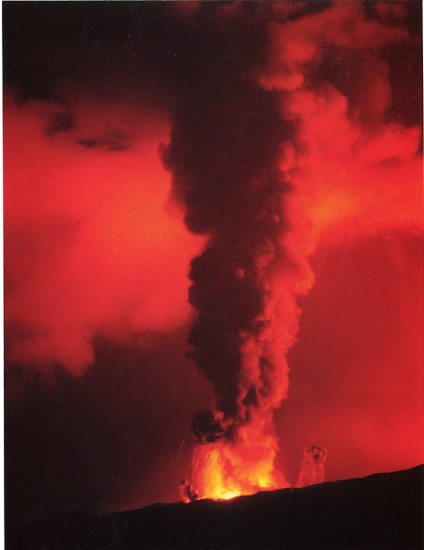
←  
写真 3

写真 5 ↓  
警察署屋上より見たC火口列割れ  
目噴火の開始 (11月21日午後5時  
47分)。右側はB火口列、C火口  
列噴火の最初はC3またはC4火  
口と推定される。



→  
**写真4**

警察署屋上より見たC火口列の割れ目噴火。開始約4分後、大きな噴煙柱はC3-C4火口と思われ、その右側でC2火口開口か？（11月21日午後5時51分）。



**写真6 ↓**

写真5の約5分後のB火口列噴火（右）とC火口列噴火（左）。この直後にC6火口が開口した。





↑ 写真 7

御神火茶屋より見た割れ目噴火(B火口列)の開始。2ヶ所から噴煙が上がっている(11月21日午後4時15分)。



← 写真 9

カルデラ床割れ目噴火(B火口)の開始から約5分後、噴煙柱高度は急速に増し、2,000 m以上に達した。



↑ 写真8

写真7の約5秒後、割れ目は右側に拡大し、噴煙柱も急速に高さを増している。



→ 写真10

外輪山斜面上の火口(C9)。火口壁には幅約30~40cmの岩脈が観察され、火口列の延びの方向(北西-南東)とはほぼ一致して火口壁の両側に見られる(1月13日撮影)。



↑ 写真11 外輪山斜面上の火口(C5)。噴石の厚さは最大7m程度で 一部は溶結している。写真ほぼ中央には湯場から御神火茶屋へ続く有料道路の断面が見える(2月6日撮影)。



↑ 写真12 C火口列。写真手前からC1 C2(一番大きく見える) C3 C4(細長い地溝状) C5火口(12月9日撮影)。



↑ 写真13 カルデラ床のLBIII溶岩(写真上)とLBII溶岩(写真中央)。LBIII溶岩は11月21日流出 LBII溶岩は11月23日に流出した(12月17日撮影)。



↑ 写真14 LBII溶岩の全景。この溶岩の流出時(11月23日)には爆発音 噴煙 噴石等の放出がなく 21日の噴石丘の側腹を破って(?)流出した。出口付近はあたかも小さな噴石丘のように21日の噴石丘の表面が盛り上がっている(12月17日撮影)。



↑ 写真15 カルデラ床のLBI溶岩、1951年溶岩(写真手前側)を覆う。写真右上にはLBIII溶岩が見える。B火口列の溶岩は上位に赤茶けた噴石をのせている場合が多い(12月9日撮影)。



↑ 写真16 大島南東部にできた割れ目と伸縮計(本文遠藤ほかを参照)。割れ目の方向は北西—南東で手前側が55cm落ちている。道路には降下スコリア(B火口起源)が約10cm積もっている(1月10日撮影)。